



西合志南小学校だより

西南小の風

【校訓】明るく かしこく たくましく

学校教育目標：主体性と協働性を育み、夢の実現に挑戦する児童の育成



令和8年 1月 8日
第12号
文責 西村 英一

本年もよろしく願いいたします

2026年（令和8年）となり、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかな新年をお過ごしのことと存じます。冬休み明けの今日、新年の挨拶を自分からする姿、寒さに負けず朝から運動場で元気に駆け回る姿、友達と談笑する姿等を見ることができました。新年を迎え、子供たちは、はりきっているようでした。

冬休み明け集会では、「1月、2月、3月は、今の学年のまとめをして、次の学年に向けた準備の時期です。6年生は、中学校へ入学する準備の時期です。抱負を持ってほしい。」と話しました。

午年は、自分から進んで挑戦したり、すばやく決断したりすることが、成功を引き寄せる「年」と考えられているそうです。子供たちには、自分の可能性を信じて、前向きに進んでいってほしいと思います。

本年も職員一同、子供たちのより良い成長のために尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

人権フェスティバル

昨年12月6日に合志市人権フェスティバルが開催されました。人権フェスティバルの中では、人権啓発の標語やポスターの表彰、保育園や中学校の発表等がありました。参加して、私自身の人権感覚の見つめ直す良い機会となりました。

表彰を受けたされた標語（下）やポスター作品（右）の一部を紹介します。

I LOVE ME♡ 相手を認め 自分も認める

「いじり」「からかい」そのつもりでも それは「いじめ」と同じだよ



P T Aより、サッカーボールをいただきました

12月20日、PTA主催の全体レクリエーションが開催されました。たくさんの子供たちと保護者の方が参加され、「増え鬼」や「〇×ゲーム」をして遊びました。

増え鬼では、子供たちの素早い動きに保護者の方が手こずる場面もありました。また、〇×ゲームも大盛り上がりでした。正解が発表される度に歓声があがっていました。子供たちや保護者の方々の親睦を深めることができました。

全体レクリエーションの最後には、PTAよりサッカーボールを24個いただきました。ありがとうございました。大切に使用させていただきます。



「非認知能力」を高める関わり方5

「非認知能力」を高めることに有効な「質問」について紹介します。「質問」することで、子供のやる気やセルフコントロール力を高めることが期待できるそうです。

毎回のことですが、保護者の皆様の家庭での子供さんとの関わりに何かしら参考になることを願っています。

① 注意や指示をしていた言葉を「質問」に変える→イメージを持ち、素直に行動するようになるそうです。

私たちの脳は、人から言われたことに素直に従えない傾向が個人差はありますが誰にでもあるそうです。しかし、「～しないさい」を「～できるかな？」という質問に変えるだけで受け入れやすくなるそうです。これは、私たちの脳が、自分で選びたいという欲求をもっているからだそうです。

例えば、「暴れないで、静かにできるかな？」「10時にお出かけするけど大丈夫？」と言った具合です。質問により、行動する自分をイメージし、自分にできるか考えて行動するようになるそうです。

② 「質問」に「許可」「理由」を付け加える→やる気を一層引き出すことにつながるそうです。

「～してもらえるかな？」「～をやめてもらえるかな？」と質問で許可を求めます。この話し方には「あなたを信頼しています」という意味が入るので、やる気や自己肯定感が高まるそうです。さらに理由を付け加えると効果が上がるそうです。

例えば、「周りの人がびっくりするから、静かにしてもらっていいかな？」「今夕飯を作っているから、お風呂の用意をしてもらえるかな？」と伝えると相手は行動しようという気持ちになりやすいそうです。

他には、「お風呂掃除をする」「洗濯物をたたむ」「部屋を片付ける」といった選択肢をあげてから「どれかしてくれる？」と尋ねると「お手伝いをする」は決定事項で、あとは3つから相手が自分で選ぶことになります。このような関わりにより、自分で決めて、より良く生きていくための自立心が育つそうです。

参考文献：非認知能力を育てる17の習慣（著者 西剛志氏 あさ出版）